

幼・少年期におけるスポーツ育成への取り組みについて新思考と新試行

長野国際交流スポーツクラブ：高橋寛[代表・長野県スケート連盟]、上原真奈[新体操]、張淑華[中国語]、藤居桂子[英語]、霜村一江[韓国語]

1997.7.1(平9)、競技志向型クラブ(小学生～一般)として設立し指導・育成をして参りましたが、幼・少年期におけるスポーツ育成へのあり方に疑問を抱きながら改善の糸口を探して参りました。約1年の検討期間を経て、2006.7.16長野国際交流スポーツクラブとしてリニューアルし、昨年は小学4年生まで、今年は小学5年生までを募集し、活動2年目を迎えました。指導者も保護者も、生徒も、幼児も一緒になってさまざまな国の言葉を学びながら、さまざまなスポーツ文化を楽しむ集団です。

現状：一般的傾向(内部も共通)―― 少子化による人的将来への不安、選手層の弱体化(厚い選手層⇒薄い選手層での選手発掘)、選手の激減、自己の取得したスポーツへの愛着度の低下(中学へ進学後継続困難)、強いられる子供への親の願望など。

疑問を抱いた問題点：

- 1 社会を取り巻く一般的傾向―― 部員の減少、スポーツの多様化、選手離れ、魅力の低下、受験競争など。
- 2 内部の問題―― 将来性のない選手の育成方法の欠如、幼・少年期における超競技志向、幼・少年期の単一スポーツ育成、幼・少年期の特性(発育・発達と身体的特性[スキンの法則])の総合的に見た活かし方(スポーツ活動への偏重?)など。

対策：

- 1 魅力あるクラブ活動を全員で発見しようキャンペーン。
- 2 幼・少年期の活動を通じて、一人ひとりに将来へのスポーツ選択のアドバイス(場合によっては専門団体へ照会も)。
- 3 将来競技スポーツ選手として難しい部員の育成方法と活かせる道の支援・発掘。
- 4 保護者も指導者も一緒に参加する、教えられたり教えたり出来る活動の導入。
- 5 複数のスポーツ活動と文化活動の両立(世界中の誰とでも活動が出来るような環境づくり)。

試行と実績：

- 1 昨年は15人の募集に対し、123人の応募があり小学4年生まで16人に絞る。今年は5人の増員募集に対し33人の応募があった。現在は保育・幼稚園6、小学5年生まで15、指導者10、医師1と保護者25の計57人で構成。

- 2 **18年初年度2006.7.16～2007.3月[9ヶ月間]の実績** 活動記録は、長野市の施設に3/27～5/13の17日間と5/29～6/5の8日間展示(幼稚園児のアイデアによる展示方法)、新聞(4/19)に掲載等。

<ことば>中国語(2008北京五輪のため)、英語、韓国語を主体にその他数ヶ国語。場所選ばず、教科書は使用しない。

<スポーツ> スキー、そり、スケート、ローラースケート、フロアホッケー、ユニバーサルホッケー、フライングディスク、ボール投げ、陸上、野外ペタンク、室内ペタンク、ボウリング、マレットゴルフ、クッキングなどを体験。

<大会参加・成果> 北信地区ボウリング大会(小学生低学年優勝・高学年6位・一般2位・6位)、長野市マレットゴルフ大会(2位)、長野市民スケート競技会(優勝2人・2位2人・3位2人)。ドイツへ2人日独交流に日本代表として派遣。意外な成果!

<交流等> ワールドカップ(吉井選手と)(中国選手団と)、帰省お友達交流、黒姫高原スキー/そり大会(バイスロン・そりシングル・ペア・ジャンプ [黒姫高原スノーパーク専用ゲレンデ]、バーベキュー、クッキングスポーツ大会等。新聞社へ新聞作り学習、FM放送出演等

今後の試行と課題：本年度は韓国語・絵手紙、ラグビー、ふらば～るバレエ、エアロビクス、水泳、キャスティングなどを追加。前年度、試験的に実施したスキー/そり少年大会を、本年度は本格的な大会として立ち上げる計画であるが、「バイスロン競技」の「銃規制」をどのように対処すればよいか。前年度は銃の代わりに「的にボールを当てる」独自の特別ルールで対応した。射撃を含めてジュニア選手の競技力向上に課題を残す。我々のようなクラブが全国的に設立されることを希望している。 以上